

平成 25 年 3 月 25 日

平成 24 年度大学改革推進等補助金事業実施報告書 (HP 掲載用)

所属診療科名 第一内科
派遣先病院名 もとぶ野毛病院
氏 名 仲村 秀太

<p>1. (本学附属病院及び派遣先病院で実施した業務の概要)</p> <p>地域住民の高齢化に伴い慢性疾患を有する患者を多数抱える一方で医師不足に陥っている沖縄本島北部医療圏において、呼吸器および感染症専門医として北部地域基幹病院であるもとぶ野毛病院で内科診療を行った。</p> <p>本学附属病院では HIV/AIDS 感染症診療および臨床研究に従事した。</p>
<p>2. (本学附属病院及び派遣先附属病院業務の詳細)</p> <p>①呼吸器内科専門外来を行うと同時に非専門医からのコンサルテーションを受け個々の患者にあわせた適切な診療方針の提言を行った。</p> <p>②慢性呼吸器疾患患者に対する禁煙などの患者教育を実施した。</p> <p>③看護師や研修医に対してベッドサイドや講義形式のレクチャーを通して呼吸器疾患や感染症疾患の見方を指導教育した。</p> <p>④グラム染色を用いた感染症診療の導入。</p> <p>⑤HIV 感染者の骨粗鬆症の有病率に関する臨床研究を行った。</p>
<p>3. (当該業務の成果)</p> <p>肺結核や肺癌の診断や患者への病状告知、専門機関への転院など非専門医のコンサルテーションに対して助言を与えることで診療が円滑になり、専門医不在の日にも適切な対応がとれるようになった。インフルエンザ流行期には院内での集団発生を抑制するための感染制御に関して対策を提案し病院機能維持に貢献できた。外来では、喫煙者の喘息および慢性閉塞性肺疾患患者群に対して積極的な禁煙指導を行い禁煙外来への誘導を経て禁煙を成功させた。</p> <p>感染症診療においては血液培養などの適切な検体採取を行った上で治療開始することが望ましいが、派遣先の野毛病院ではこのような原則手順が遵守されていなかった。看護師や研修医に対してレクチャーを通してこのような感染症診療の原則を指導したことで培養検査の実施が増加しその結果、適切な抗菌薬の選択が容易になった。グラム染色を感染症診療の一部として導入したことで、特に院内肺炎や人工呼吸器関連肺炎といった呼吸器感染症の適切な抗菌薬選択に役立つ広域の抗菌薬使用が減少した。本学の感染症病棟に導入した光学顕微鏡もグラム染色の検鏡時に使用され感染症の迅速診断に寄与することができた。</p> <p>多くの若年 HIV 感染者で骨粗鬆症の進行が判明し生活指導に大きく寄与することができた。</p>